

2023年(現在)

2040年

※取組は、2023～2027年の5か年で実施

魅力

- ・自然環境が豊かでみどりが多い。
- ・四季折々の自然景観を楽しむことができる。
- ・公園や広場が随所にある。
- ・南大沢駅周辺が遊歩道でつながり、街中は歩車分離がなされて安全で快適に歩くことができる。
- ・起伏のある地形により、散歩コースの選択肢が豊富にある。
- ・交通アクセスが良い。
- ・近場で買い物が進められ、利便性が高い。
- ・個別の地域活動が盛んで活動メニューが豊富にある。
- ・スマートシティの取組など、先進的な取組が行われている。

課題

- (ア) 地域全体をまとめる組織がない
 - ・地域で活動する組織は多いが、地域全体をまとめる組織がないため、住民・団体や行政などの架け橋となる組織やコミュニティが必要。
 - ・住民参加型で地域の方向性を決める仕組みが必要。
- (イ) 担い手の不足
 - ・自主性のある若手地域人材の育成が必要。
 - ・現役をリタイアした豊富な知識・経験を持つ地域人材の確保が必要。
 - ・大学・企業などとの連携が必要。
- (ウ) つながる機会・場の不足
 - ・少子化等の影響により、子ども会の解散や自治会のスポーツ大会がなくなったほか、新型コロナウイルスの影響により縮小・中止された、地域のイベントや祭りなどを再開し、つながるきっかけにする。
 - ・災害などの有事の際や、閉じこもりなどの地域からの孤立を防ぐため、子どもから高齢者までがつながれる機会が必要。
 - ・地域資源を活用し、気軽に集まれる場所の確保が必要。
 - ・リアルとDXを活用し、だれもがつながることができる場所が必要。
- (エ) つながる意識の不足
 - ・地域活動等に参加したくない人のことも尊重しつつ、つながることの重要性について意識づけが必要。
- (オ) 地域情報共有の不足
 - ・団体の活動情報など、地域情報を集約するところが必要。
 - ・年代や国籍などの属性に応じた、情報共有手段の検討が必要。

将来ビジョン

〜認め合うやさしいアットホームマイタウン〜
(仮案) だれもが笑顔に過ごすまち 南大沢

アクションプランの柱

① 地域ぐるみの体制づくり

・地域づくり推進会議において、地域の様々な住民・団体が連携できる体制づくりを目指します。

② みんながつながる機会・場づくり

・地域で活躍する住民・団体がそれぞれの役割や活動を知る、きっかけづくりに取り組みます。
 ・多彩な地域活動を活かし、誰もが楽しめ、誰でも受け入れる交流の機会・場づくりに取り組みます。

③ 地域の魅力になる人材の発掘・育成

・地域に眠る人材を発掘します。
 ・地域活動に参加し、活動の楽しさを感じてもらうことで、地域の魅力を受け継ぐ人を育成します。

④ 地域の魅力になる資源の活用

・地域の公共施設などの資源をつながる場として活用します。
 ・地域の大学・企業、商店街などと連携し、地域の魅力を高めていきます。

取組の候補

○ミニツアーの実施

- ・地域カルテを活用した、散策ツアー
- ・地域組織活動の体験ツアー（自然観察、清掃活動、防災訓練 etc.）
- ・地域資源を知る機会（自然、人、活動）

○地域団体をつなぐイベントの実施

- ・個々の地域イベントを連携
- ・多様な住民の外出、ふれあいのきっかけづくり
- ・住民が持つ多彩なノウハウを発揮する場

○憩いの場づくり

- ・多世代が気軽に憩える場づくり（テーブル、ベンチ etc.）
- ・既存の公共施設、遊歩道、店先、空き部屋等の有効活用
- ・小さなもてなし（カフェ、ストリートピアノなど）

○地域情報ポータル作成

- ・イベント、防災・防犯、住民の声、地域人材など、様々な地域情報の集約化、情報発信
- ・ホームページ、SNS、地域カルテなどの活用

共通テーマ

カーボンニュートラル

地域防災

公共施設マネジメント

検討の視点

DX